

令和7年度

愛知県

民俗芸能大会

一宮市大会

入場無料



鳥文楽(一宮市)
鳥文楽保存会



新茶屋海東流神楽太鼓(名古屋市)
新茶屋神明社神楽保存会



能田徳若万歳(北名古屋市)
能田徳若万歳保存会



市場区常磐車祭り囃子(常滑市)
常磐車を守る会



山中八幡宮デンデンガッサリ(岡崎市)
山中八幡宮デンデンガッサリ保存会



えんちよこ獅子・銭太鼓(高浜市)
高浜えんちよこ獅子保存会

- ① 入場方法(①、②のいずれか)
 入場整理券(9月2日から配布)
 配布場所
 ・愛知県文化財室(愛知県庁西庁舎8階)
 ・一宮市博物館
 ・尾西市市民会館 ほか
- ② オンライン申込(8月25日から受付)
 ・一宮市市民会館
 ・「あいち電子申請・届出システム」
 (<https://tzk.gafnet.jp/pre-aiich/>)にアクセスし、
 「令和7年度『愛知県民俗芸能大会』入場申込」の
 画面から申込をしてください。

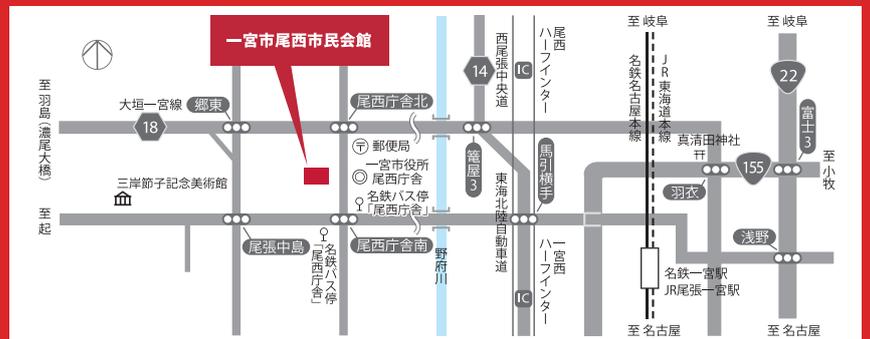


2025年
10/12日

午後1時開演(午後0時30分開場)

一宮市尾西市民会館 ホール

一宮市東五城字大平裏43番地1



[交通案内]

<公共交通機関をご利用の場合>

- JR東海道本線(名古屋駅⑤⑥番)にて「尾張一宮駅」下車、または名鉄名古屋本線にて「名鉄一宮駅」下車(JR新快速・名鉄特急で10~15分)、一宮駅西口の名鉄バスターミナル
- ②番のりばからバス停「尾西庁舎」まで約15分

<車でお越しの場合>

- 東海北陸自動車道(名古屋方面) 一宮西ICから約15分
- 東海北陸自動車道(岐阜方面) 尾西ICから約10分

《問合せ先》 ●愛知県民文化局文化芸術課文化財室(愛知県庁西庁舎8階)

愛知県名古屋市中区三の丸3丁目1-2 TEL:052-954-6783(土・日・祝日を除く)

●一宮市博物館

愛知県一宮市大和町妙興寺2390 TEL:0586-46-3215(休館日を除く)

主催 愛知県／一宮市

令和7年度 愛知県民俗芸能大会 一宮市大会



能田徳若万歳
・市指定無形文化財
 北名古屋市の能田地区に伝えられてきた御殿万歳で、才蔵が打つ鼓のお囃子に、太夫が扇で舞うという祝福芸です。
 鎌倉時代に長母寺(現名古屋市東区)の名僧・道暎(無住国師)に、味鏡村(現名古屋市北区)の安部朝臣有佐の次男である徳若らが陰陽の道を学ぶかたわら万歳歌を教わったのが、徳若万歳の起源とされています。
 明治の初め頃、現あま市甚目寺町の桂五郎から、現北名古屋市の能田の長瀬幸右衛門など数十人が徳若万歳を習い、これが今日の能田徳若万歳の始まりであるとされています。
 演目には「陰陽五穀の舞」「さっかい踊り」「七福神ばやし」があり、中央の太夫と脇の才蔵達、3〜7人で演じます。また、万歳の口上は能田徳若万歳の大きな特色のひとつです。



新茶屋海東流神楽太鼓
・新茶屋神明社神楽保存会(名古屋市中)
・市登録無形民俗文化財(港区西福田の神楽屋形行事)
 尾張南西部の農村地帯では、江戸時代より、秋の大祭で神楽屋形を引き出し、五穀豊穣と豊年万作を祝って村中を回る行事があります。そこで、神楽太鼓が披露されます。
 神楽太鼓には、座して打つ太鼓と、立って打つ太鼓演奏があり、座して打つ太鼓は、檜製の撥を回転させたり、飛ばしたりして打つ曲技が見所です。
 立って打つ長胴太鼓は、屋形の上に置かれ、太鼓の皮は破れる寸前まできつく張ってあります。竹を細く割った撥で打つと、非常に高い音が鳴り響き、秋の晴天時には、一里先まで響き渡るといわれています。
 今回は、主に座して演奏する太鼓で、曲目は「神楽太鼓」、「四つ節」、「綿寄せ」、「森津」の4曲を演奏します。



島文楽
・島文楽保存会(二宮市)
・市指定無形文化財
 一宮市島村に伝えられた、人形芝居(人形浄瑠璃)です。
 慶応3年(1867)、葉栗郡大毛村(現一宮市大毛)の野々垣仙石右衛門等が、現岐阜市芥見の渡辺常助から人形を買って受けました。しかし、若者たちが夢中になり家業手伝いもしないことに親たちが立腹し、明治の初めに葉栗郡島村(現一宮市島村)へ譲りました。譲り受けた島村在住の森嘉助、彦坂嘉左衛門、岡本藤右衛門等の有志が、大阪文楽人形遣いの豊松清十郎・加藤要、真桑文楽(岐阜県本巣市)の桑原清十郎等に指導を受けました。
 現在の人形は、明治初年に岐阜座から購入したもの、名古屋の朝比奈奈から購入した「天保2年」銘の人形など百数十点になります。
 島文楽は市の無形文化財、島文楽人形36体は市の有形民俗文化財に指定されています。



えんちよこ獅子・銭太鼓
・高浜えんちよこ獅子保存会(高浜市)
・市指定無形民俗文化財(えんちよこ獅子)
 高浜市の森前地区で伝承されてきた、二人立ちの獅子舞です。
 資料によると、享和3年(1803)には、当時の高浜村の各組が雨乞いで獅子を奉納したとされています。近年実際に雨乞いのために披露したのは、平成6年(1994)の大洪水の時、明治用水土地改良区からの依頼により獅子舞をした夜に、少し降雨があったということです。
 現在伝わるえんちよこ獅子の演目は、「背中合わせ(立)」、「横ダケ」、「ジャラヒヤラ下り」、「ネジ屋」、「宙ギリ」、「背中合わせ(両膝付け手離し)」の7種です。またお囃子は「宮入り」、「銭太鼓」、「オンパコヤ」、「獅子の出」、「獅子の舞」の5つです。
 獅子が2人ペアでアクロバットに動きます。迫力ある演舞をご覧ください。また、お囃子や、着飾った子どもたちによる銭太鼓踊りにも注目してください。



山中八幡宮デンデンガッサリ
・山中八幡宮デンデンガッサリ保存会(岡崎市)
・市指定無形民俗文化財
 山中八幡宮に古くから伝わるお田植え神事です。
 歌詞の初めに、「デンデン・田んぼ田んぼでカッサリ(親しくする、合祭交合)」という意味の「デンデンガッサリヤ」と唄い出すことから「デンデンガッサリ」と言われています。
 前歌・後歌・セリふ・所作により年間の農作業を表現し、天候の恵みと稲の豊作を祈願します。
 豊作を表す大鏡餅を鎌に見立てた小餅で刈り取り、牛の背に載せ蔵へ運び込むとき、豊作のため牛が重さに耐えきれず倒れる所作が特徴的です。
 そして、奉納を終えてその場で大鏡餅を細かく切って参拝者に餅投げをします。この餅を食べると1年間無病息災で過ごせると言い伝えられています。
 古くから伝わる神事で、素朴さの中に郷土農民の魂が感じられます。



市場区常磐車祭り囃子
・常磐車を守る会(常滑市)
 常滑地区の祭礼では、6台の山車が一同に揃い、地区内を曳き廻します。その中の1台が市場区の常磐車であり、そこで祭囃子(山車囃子)が演奏されます。
 祭囃子は、「道行き囃子」と「山車囃子」に分かれ、さらに、「山車囃子」は、「昼囃子」と「夜囃子」に分かれます。
 「夜囃子」にはかねの音が入ることが特徴的です。祭礼当日の夜には、常磐車は赤い提灯に彩られる中、「夜囃子」が賑やかに奏でられ、祭りの雰囲気もますます盛り上がります。